

ペットの体調が悪くなって動物病院に行き、薬をもらったけれど、飲ませるのを忘れてしまった、ということはありませんか？

薬は動物の体に影響を与え、病気の診断や治療に用いられるものと定義されています。体に影響を与えるのですが、体の中にはさまざまな機能があり、ただ一つの反応を起こさせる薬を作るのはなかなか難しいものです。

もともとの期待される役目のことを主作用、他の働きのことを副作用と言います。例えば、肝臓や腎臓に負担がかかったり、内服薬の場合に薬が強過ぎて下痢や吐き気などの消化器症状を引き起こすこ

あんしん！ペットライフ

④3

ペットの薬、その副作用とは？

となどが多いです。

原因は投与量の問題や動物の種や年齢、性別により感受性が異なること、遺伝的な体質など個体差により生じてしまうなどさまざまです。

動物の薬は人間用の薬を調合して処方されることも多く、獣医師は人間の薬剤師のような知識も必要となります。効果のある薬ほど副作用が大きいことが多く、獣医師が処方する際には治療効果と副作用を十分考慮し、メリットの大きい方を選択します。強めの薬を短期間に服用した方が良い場合もあれば、いっ

たん飲み始めたら一定期間服用した方が良い薬もあります。

そのため、処方された量を勝手に減量すると期待される効果が得られないこともあります。飲み忘れた薬をまとめて飲ませるのも危険なのでやめましょう。

家族側も薬の知識を持つことで、よりスムーズな治療が期待できます。分からないことがあればしっかりと質問し、ペットの健康を守りましょう。

(アニコム損保

獣医師 井上舞)